

艤装中の新造フェリーに会いに「しまなみ海道」へ

2024.11.3 池田良穂

台風崩れの低気圧が通過した後の11月3日、尾道周辺は快晴との定期予報を確認して早朝に車でしまなみ海道(尾道-今治間を島伝いに瀬戸内海を横断する高速道路)に向いました。目的は、内海造船で建造中の3隻のカーフェリーの姿を見る目的でした。同社の因島工場では、商船三井さんふらわあ社の大洗～苫小牧航路のLNG燃料カーフェリー「さんふらわあ カムイ」と「さんふらわあ ぴりか」が艤装中、そして瀬戸田工場では甑島航路の「結Line こしき」が艤装中です。北海道航路と九州航路の両方のフェリーに同時に会うことができるのも、この艤装中だけです。新聞報道等で3隻の進水のニュースは知っていましたが、名前の表示が少し変わっていたので、それも確認したいと思っていました。「カムイ」はローマ字表記で「KAMUI」ではなく「KAMUY」、「ぴりか」は「PIRIKA」ではなく「PIRKA」となっていました。「カムイ」はアイヌ語で、「神」という意味とのことですが、日本語の「神」とは少し違うとのこと。英語の発音ではkamuyに近いとのこと。「ぴりか」は「美しい」という意味で、同じくpirkaの方が発音的に近いということのようです。

甑島商船の「結Line こしき」は、漢字、英語、ひらかなでの船名がユニーク。「フェリーニューコシキ」の代替船で、「結Line」という字がどのように書かれているかが興味津々でした。

さて、最後に撮影ポイントについて説明します。「さんふらわあぴりか」姉妹は、因島の土生港から生名島へのフェリーに乗ると、船上から、また生名島のフェリーターミナル、周辺道路から撮影ができました。また瀬戸田工場の艤装中の船は、どこに係船されているかによって撮影ポイントが異なりますが、「結Line こしき」は、沢港のフェリー桟橋側の内海造船艤装岸壁に着岸しており、生口島・瀬戸田の沢港と、三原市の須波港を結ぶ弓場汽船のカーフェリー「第二かんおん」の船上から撮影ができました。



(本船イメージ図)



マスコミ報道された外観塗装のイメージ図です。



「さんふらわあ ぴりか」(右)と「さんふらわあ かむい」。フェリー「ゆめしま」船上からの撮影です。



生名島の海岸線の道路から、因島の内海造船艦装岸壁に係留中の2隻が撮影できました。



因島・土生港と生名島・立石港を結ぶ「ゆめしま」です。



生口島の沢港のフェリー桟橋から見た艤装中の「結 Line こしき」です。



沢港を出港直後の「第二かんおん」船上から見た「結 Line こしき」の左舷側です。



沢港を出港直後の「第二かんおん」の船上から見た「結 Line こしき」の右舷側です。



顔写真も撮影できました。



沢港と須波を結ぶカーフェリー「第二かんおん」です。
1日 10便運航され、途中で佐木島の向田港に寄港します。
ETCカードを提示すると自動車航走料金の割引がありました。